

*人が悪だから地を滅ぼさないという約束

今日は、大洪水の後「地を滅ぼさない」という主の約束に注目する。8章の21、22節「【主】は、その芳ばしい香りをかがれた。そして、心の中で【主】はこう言われた。「わたしは、決して再び人のゆえに、大地にのろいをもたらさしはしない。人の心が思い図ることは、幼いときから悪であるからだ。わたしは、再び、わたしがしたように、生き物すべてを打ち滅ぼすことは決してしない。この地が続くかぎり、種蒔きと刈り入れ、寒さと暑さ、夏と冬、昼と夜がやむことはない。」」

6章の初めに、神である主が人類を滅ぼそうとした理由は、人々が、悪いことをし続け、悪が増大したからである。ところが、洪水の後、主は同じ理由で、決して地を滅ぼさない、と言われるのである。

主なる神様は、洪水前は「人が悪」だから滅ぼそうと決心し、洪水の後には、同じように「人が悪」だから滅ぼさないと決意したのだ。矛盾しているように思えるが、人間の言葉では表現しきれない主のお心の内側が、現れていると見なすことができる。主の聖さや正義を土台として、罪深い世界に、もはや大洪水のさばきは行わない、と言うことは、恵みが一段と、一段と増し加わった、と言うことではないか。

9章に入って、この地を滅ぼさないという約束は、神様の大きな祝福として現れ出る。1節「神はノアとその息子たちを祝福して、彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。・・・」この祝福のことばは、人類最初の人アダムに与えられたものと同じ言葉だ。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。」再出発する決意の表れなのである。しかし、人が増え広がれば広がるほど、悪も罪も不正も広がって行くのだ。主なる神様は、どのようにしてこの地上の悪にケジメを付けようとしておられるのだろうか。それは、何と、人間を滅ぼさないで、主ご自身が自ら犠牲になって、救いの道を開き、人間の罪悪の問題を解決しようとしたのである。

*キリスト預言(予表)

これは、御子イエス・キリストによって可能である。主なる神様は、地を滅ぼさない、と言う約束と共に、キリストが来て、成して下さることを予告された。9章5節の初めで、主は語った。「わたしは、あなたがたのいのちのためには、あなたがたの血の価を要求する。」

主は、私たちのいのちのために、私たちの血を要求するというのだ。ここには、救い主イエス・キリストが、成し遂げられた救いの御業があらかじめ示されていると見ることができる。

イエス様は、私たちのいのちを救い出すために、自ら私たちと同じ人間の姿を取って来て下さり、十字架の上で血を流して、罪から来る「死」と言う「報い」を帳消しにしてくださったのだ。